

鳥取大学 乾燥地研 だより <21>

村中 聡

バルカ・ダ・ズワ？
(ハウサ語で、ご機嫌
いかが？)。長い乾季
も終わりを告げ、七カ
月ぶりの雨が降ったア
フリカ、ナイジェリア
共和国の北方の町、カ
ノからまずはおいさ
つ。

私は、一年半の鳥取
大学乾燥地研でのトレ
ーニングを経て、国際
熱帯農業研究所(IITA)
の一員として、
ここサヘルの一角で農
業研究に取り組んでい
ます。
なぜ日本人がアフリ
カに行ってまで農業研
究を？と疑問に思わ
れるかもしれませんが、
でも、あの名言、「事

件は現場で起きている
んだ」の通り、ときに
は誰かが現場で問題に
取り組まなければ話が始
まらないのです。
サヘルと呼ばれるこ

の地域では、毎年三
四月の間だけしか降
らない不規則な雨を頼
りに作物の栽培を行
います。このため、農業
は毎年ある意味ギャン
ブル。雨次第で十分な
食料が手に入ったり入
らなかったり。たから
な雨の台間の乾燥スト
レスはササゲの収穫量
を激減させる農民の頭
痛の種。ササゲは農民

夫をして作物を育てて
います。
私のごこの研究テ
ーマは、乾燥ストレス
に、より強いササゲ
(マメ科作物)品種の
育成です。
前述の通り、不規則

難しい現地語に悩みつ
つも、やりがいはけ
毎日満タンです。
日本やさまざまな国
からの支援で運営され
ているIITAでは、
会話はすべて英語、日
本人はたった二人。慣

雨次第の農業



笑顔で働くニシエール・トゥムニア村の農民

でも、乾燥地研で出
会った本場に多様な
方々に、一歩踏み出す
勇気をいただき、ここ
にいます。今では違う
環境に居ることを楽し
めるようになってしま
した。
皆さんも現場で働い
てみませんか？ やり
がいは保証します
(元乾燥地研究セン
ターCOE研究員)
(毎月2回程度掲載)

にとって重要な現金収
入の糧なので、優れた
品種が育成できれば、
農家の収入と食料生産
の安定につながりま
す。
でも、農民に受け入
れられる優れた品種を
作るには、「現場」で
の正確な選抜と農民と
の意見交換が重要。真
っ黒になりながら圃場
(ほしよつ)を巡り、